様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　25 年　5 月　31 日現在

機関番号：３３９１０
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2008～2012
課題番号：２０７９１７４８
研究課題名（和文）緊急帝王切開分娩の母親への看護支援：教育的・精神的ケアのガイドライン開発に向けて
研究課題名（英文）Nursing support to mother who experienced an emergency cesarean section: toward development of guideline on educational and mental care
研究代表者　横手　直美（YOKOTE NAOMI）
中部大学・生命健康科学部・准教授
研究者番号：10434573

研究成果の概要（和文）：
分娩に起因した母親の心的外傷後ストレス反応の産褥 6 カ月間の変化を自記式質問紙によって縦断調査した。産後 6 ヶ月における PTSD のハイリスク者は 246 名中 13 名（5.3%）で、分娩前のトラウマ体験の既往とこころの問題での受診歴、分娩時の過酷な陣痛、医療処置や出産環境の急変に関するトラウマ体験が特徴的であった。よって、こころの脆弱性に関する妊娠期の注意深い問診と産褥早期の出産体験の認識を把握することが重要であると示唆された。また、緊急帝王切開分娩はトラウマ体験が生じやすい状況であることが再確認された。

研究成果の概要（英文）：
This study aimed to identify the change of women's posttraumatic stress reactions related birth during 6 months after birth. A longitudinal method by self-reported questionnaire was employed and 246 women completed. The high risk was 13 women (5.3%) after 6 months, they tended to have a trauma before delivery, a health history of mental problem, and traumatic birth experiences related to harsh labor, medical care and rapid change of birth circumstances. These results suggest it is important to ask carefully a expectant mother about her mental vulnerability and understanding her birth experience while it's still early postpartum. Also, it was reconfirmed that an emergency cesarean section is easily relate to traumatic experiences.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	1,500,000	450,000	1,950,000
２００９年度	700,000	210,000	910,000
２０１０年度	565,970	169,791	735,761
２０１１年度	534,030	160,209	694,239
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：生涯発達看護学
科研費の分科・細目：母性看護学
キーワード：帝王切開、トラウマ、PTSD、母親、出産前教育、精神的ケア、ガイドライン

１．研究開始当初の背景

（1）近年、帝王切開（帝切）率の上昇が世界的傾向として認められており、なかでも緊急帝切分娩では分娩に起因したトラウマ体験が母子関係や次子妊娠の希望・妊娠までの期間にまで影響することが危惧されている。

（2）海外では分娩に起因したトラウマ体験と Posttraumatic Stress Disorder （PTSD）の有病率、看護職による産褥早期の介入方法に関する研究も行われているが、国内では現状さえもよく分かっていない。

２．研究の目的

（1）分娩に起因した母親の心的外傷後ストレス反応（Posttraumatic Stress Reaction :PTSR）の産褥 4 日目、1 ヶ月、6 カ月における変化を明らかにする。

（2）産褥 4 日目、1 ヶ月、6 カ月における PTSR の関連要因を妊娠前・分娩時・産褥期の視点から明らかにする。

（3）海外における分娩に起因した PTSR に対する研究および看護介入を視察し、上記（1）（2）の結果と合わせて、今後の教育的・精神的ケアのあり方を検討する。

３．研究の方法

（1）自記式質問紙による妊娠 32 週、産褥 4 日、1 ヶ月、6 カ月の縦断的調査

①データ収集方法：妊娠 32 週以降に妊婦の産科学背景、産褥 4 日に今回の分娩結果と分娩時のトラウマ体験の有無、PTSR について、産褥 1 ヶ月・6 ヵ月に母子の近況、PTSR などについて自記式質問紙調査を行った。なお、本研究では DSM-Ⅳによる PTSD 診断基準および先行研究を参考にして、‘トラウマ’とは、「女性が分娩入院あるいは緊急入院後、緊急帝切で子どもを出産するまでに、自分が危うく死ぬ、または危害を与えられる、もしくは子どもが危うく死ぬ、または重症や後遺症を伴って生まれるかもしれないという脅威や恐怖を感じ、動揺した体験」と定義した。PTSR の測定には、IES-R（飛鳥井）を許可を得て使用した。

②データ分析方法：SPSS ver.17 を用いて、数量的に解析した。

③倫理的配慮：本研究は中部大学倫理審査委員会にて承認を受けた（承認番号 19001）。対象者には研究参加は自由意思であること、途中中断の権利、データの匿名性等を保証し、希望者には研究協力施設の臨床心理士が面接を行った。

（2）海外の研究視察

①オーストラリア、ニューサウスウェールズ州の 3 施設

②オーストラリア、ブリスベンの Griffith University

４．研究成果

（1）自記式質問紙による妊娠 32 週、産褥 4 日、1 ヶ月、6 カ月の縦断的調査結果

①回収結果：初回配布数 520 部、回収数 497 部（回収率 95.6%）、2 回目は回収数 394 部（75.8%）、3 回目は回収数 34 7 部（66.7%）、4 回目は回収数 246 部（47.3%）であった。

②産後 6 ヶ月における PTSD のハイリスク者：IES-R 総得点でカットオフ値（25 点）以上を示した者は 13 名で、全体の 5.3%であった。これは海外の報告の範囲内であった。

③産後 6 ヶ月の IES-R 高得点群の特徴：IES-R 総得点でカットオフ値以上を示した 13 名について特徴的だった分娩前因子は、トラウマ体験の既往とこころの問題での受診

歴で、分娩時の因子は過酷な陣痛、医療処置や出産環境の急変に関するトラウマ体験であった。緊急帝切では過酷な陣痛体験も出産環境の急変も体験することが多いことから、分娩に起因したトラウマや産褥期のPTSRに注意を払うことが大切であると考えられた。また、予防的ケアとして、こころの脆弱性に関する妊娠期の注意深い問診と産褥早期の出産体験の認識を把握することが重要と考えられた。

（2）海外の研究視察

①オーストラリア、ニューサウスウェールズ州の 3 施設：Royal North Shore 病院、Hornsby Kur-ring-Gai 病院、Wollongong 病院におけるケアを視察した。オーストラリアは、わが国よりも帝切率が約 10%高く、帝切後の入院期間が半分以下（3 日間）である。現地との比較からわが国での分娩前後の教育が経腟分娩中心で行われていること、帝切分娩に限らず産後の精神的支援が不足していることを確認した。とくに出産前準備教育については、現地では Cesarean class も開講されており、一般のクラスでも帝切について必ず情報提供がある。日本でも参考となることが多かったが、わが国での周産期医療の特徴や日本人の文化的特性に適した情報内容・量を精選して提供することが必要と考えられた。

②オーストラリア、ブリスベンのGriffith University：Gamble教授の研究チームに対するヒアリングと現在進行中のプロジェクトを視察した。同研究チームは、産褥早期にPTSDのハイリスク女性をスクリーニングし、該当者に対して、トレーニングされた助産師によって提供される行動認知療法を活用したカウンセリングを行った。ヒアリングでは、この介入プログラムの作成プロセスや、縦断研究における脱落者の防止策、研究成果の還元方法に関する情報収集と意見交換を行った。これらから、日本でもPTSDが危惧されるような過酷な出産体験をした女性に対して、産褥早期の助産師による介入が期待できるのではないかと考えた。しかし、そのためには日本人女性の出産体験の受けとめ方の特徴を踏まえた介入プログラムの作成が必要であると考えられた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

① 横手直美．帝王切開分娩の受容と継続支援―マタニティアクア受講の 2 事例のサポートから―．査読無．助産雑誌 65(9): 832-837, 2011.

② 横手直美．オーストラリア　ニューサウスウェールズ州における帝王切開分娩の母子に対するケア（前編）．査読無．助産雑誌 63(2): 134-139, 2009.

③ 横手直美．オーストラリア　ニューサウスウェールズ州における帝王切開分娩の母子に対するケア（後編）．査読無．助産雑誌 63(3): 230-233, 2009.

〔学会発表〕（計 8 件）

① 横手直美．産後 6 ヶ月における心的外傷後ストレス反応と分娩前および分娩時の関連因子－IES-R高得点群の分析から－．第 26 回日本助産学会学術集会．2012 年 5 月 2 日．札幌.

② 横手直美．褥婦の分娩に起因した心的外傷後ストレス反応の産後 6 ヶ月間の変化．第 31 回日本看護科学学術集会．2011 年 12 月 2 日．高知.

③ 横手直美．分娩に起因した褥婦の心的外傷後ストレス反応の産褥 4 日目と 1 ヶ月後における変化．第 24 回日本助産学会学術集会．2010 年 3 月 21 日．つくば．

④ 横手直美．分娩に起因した女性のトラウマ体験と産褥早期の心的外傷後ストレス反応．第 29 回日本看護科学学術集会．2009 年 11 月 28 日．千葉．

⑤ 横手直美、田上まどか、柿本美和、他．分娩時のトラウマ体験による心的外傷後ストレス反応と児への否定的感情との関連．第 50 回母性衛生学会．2009 年 9 月 28 日．横浜．

⑥ 田上まどか、横手直美．産婦人科病院における臨床心理士の役割－出産直後に関わった一事例を通して－. 第 50 回母性衛生学会．2009 年 9 月 28 日．横浜．

⑦ 横手直美、渡邊実香、田上まどか、他．分娩に起因したトラウマ体験と分娩形式との関連．日本トラウマティック・ストレス学会第 8 回大会. 2009 年 3 月 14 日．東京．

⑧ 横手直美、渡邊実香、田上まどか、他．分娩に起因したトラウマ体験と産褥早期のPTSD症状との関連．日本トラウマティック・ストレス学会第 8 回大会．2009 年 3 月 14 日．東京．

〔図書〕（計２件）

① 横手直美．こころのケア．退院前後のフォロー. 竹内正人編．帝王切開のすべて．メディカ出版，2013, p189-193, 194-200.

② 横手直美．帝王切開術を受ける産婦のケア. 新道幸惠編. 新体系看護学全書　母性看護学2 マタニティサイクルにおける母子の健康と看護．第 2 章分娩期における母子の看護，2012，メヂカルフレンド社, p396-407, 413-423.

〔その他〕

ホームページ等

http://www3.chubu.ac.jp/faculty/yokote_naomi/

http://www.teiousekkai.jp/

６．研究組織

(1) 研究代表者

横手直美（YOKOTE NAOMI）

中部大学・生命健康科学部・准教授

研究者番号：10434573